

※試験期間に筆記試験を実施した。持ち込み一切不可とするかわりに、事前に問題の出題形式（一問一答式10問・記述式4問中2問選択式であること）と記述式の問題をアナウンスした。

◇試験問題（試験時間 90 分、持込不可）

【問題 1】 次の①～⑩の問いに答えなさい。

- ① 雑誌『改造』は何年に創刊された？（西暦で答えよ）
- ② ロシア語由来で「知識人」を意味する言葉は何？（カタカナ、略語でよい）
- ③ WWI の大戦景気の反面、米価の高騰に対して各地の民衆がおこした暴動は何と呼ばれている？
- ④ 北一輝の著書『日本〇〇法案大綱』。〇〇には何が入る？
- ⑤ 満州国の官僚を経験し、東條内閣の商工大臣を務め、戦後首相となった人物は誰？
- ⑥ 戦後、文部省教科書『民主主義』の執筆に携わり、「ノモス主権」論で有名な法哲学者は誰？
- ⑦ 丸山眞男が終戦を迎えたところはどこ？（都道府県名で答えよ）
- ⑧ かつての軍隊用語。軍隊を「中央」として捉え、一般社会を何と呼んだ？
- ⑨ 高坂正堯の「現実主義者の平和論」は何という雑誌に掲載された？
- ⑩ 丸山眞男の講演「復初の説」。何の改定（強行採決）をめぐる問題に対するものだった？

【問題 2】 次の4つのテーマの中から2つ選んで論じなさい。ただし、講義で扱った内容を踏まえたものとする。問題番号順どおりに答えなくてもよいが、冒頭に選択した問題番号を示してから論述をはじめること。

- ① マルクス主義の思想
- ② 河合栄治郎の自由主義論
- ③ 戦前日本の統治構造をめぐって（昭和期の議論を対象とする）
- ④ 戦後日本と「民主主義」

◇解説

講義で配付した資料と、まとまった段階で配付した「確認プリント」をもとに準備していれば難なく解ける問題である。

【問題 1】を解く際は漢字の書き間違いに要注意。【問題 2】については、問題文にあるように、講義で扱った内容を踏まえた論述であること。論理的に上手に話を展開できていれば高評価となる。なお、問題を事前にアナウンスしており、試験にむけての準備期間があった。その準備期間において各自調べたことを付け加えたりしている場合、評価（加点）の対象となる。

- 【問題 1】 ① 1919年 ② インテリ ③ 米騒動 ④ 改造 ⑤ 岸信介 ⑥ 尾高朝雄 ⑦ 広島県 ⑧ 地方
⑨ 中央公論 ⑩ 日米安全保障条約

【問題2】

①：第2回に配付した講義資料を参照。講義では、マルクス『資本論』を高畠素之訳で読んだ。そこで論じられている資本主義の構造と展開（資本の一般的公式、剰余価値の搾取、マニュファクチュアから機械が導入され大工業へと発展するなかで生じる問題など）、マルクス主義における「階級国家」観や「国際主義」についてまとめられていればよい。

②：第5回に配付した講義資料を参照。まず、自由主義の歴史（古典的自由主義から新〔new／neo〕自由主義への展開）を概観したあと、「戦闘的自由主義者」と呼ばれる河合栄治郎の思想形成から自由主義論の展開、そしてその主張とマルクス主義や国家社会主義との違いについて扱った。とくに河合がT.H.グリーンやフェビアン協会の影響を受けながら、自由主義の発展段階を「第一期」「第二期」「第三期」に分けて論じていた点を紹介できていること。

③：設問の「戦前日本の統治構造」について、講義では国務大臣の単独輔弼制や統帥権の独立について解説した。その割拠的構造がもたらす問題点について、第3回でとりあげた「革新」思想の潮流やそれに対する観念右翼の批判に注目しながら論じるか、もしくは、第9回・10回でとりあげた丸山眞男「超国家主義の論理と心理」「軍国支配者の精神形態」（また、そのなかに登場する辻清明の論考）の見解を参考にまとめてもよい。

④：第6回では宮沢俊義の「八月革命」、第8回では尾高朝雄の「ノモス主権」や文部省教科書『民主主義』についてとりあげ、さらに第12回には江藤淳の「戦後民主主義」＝「軍事占領下の民主主義」に対する批判をとりあげた。それらを参考に、設問のテーマ「戦後日本と「民主主義」」にふさわしいまとめ方ができていればよい。

以上